

目 次

1. 設置の趣旨及び必要性	1
(1) 明星大学の教育目標と教育内容及び教育方法	1
(2) デザイン学部設置の趣旨及び必要性	1
(3) 教育研究上の目的と養成する人材	2
2. 学生確保の見通しと社会的な人材需要	2
(1) 学生確保の見通し	2
(2) 人材需要と卒業後の進路	2
3. デザイン学部の特色	3
4. 学部、学科の名称及び学位の名称	4
(1) 学部、学科の名称	4
(2) 学位の名称	4
5. 教育課程の編成の考え方及び特色	5
(1) 教育課程編成の基本的な考え方	5
(2) 教育課程編成の特色	5
6. 教員組織の編成の考え方及び特色	8
(1) 教員組織編成の基本的な考え方	8
(2) 教員組織の特色	8
7. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件	9
(1) 教育方法	9
(2) 履修指導方法	9
(3) 卒業要件	10
(4) 卒業研究の単位数の設定	10
(5) 履修モデル	11
8. 施設・設備等の整備計画	11
(1) 校地、運動場の整備計画	11
(2) 校舎等施設の整備計画	11
(3) 図書等の資料及び図書館の整備計画	12

9. 入学者選抜の概要	12
(1) アドミッションポリシー	12
(2) 試験の概要	12
10. 企業実習の具体的計画	13
(1) 実習の概要	13
(2) 実習先との連携体制	13
(3) 成績評価体制	14
(4) 単位認定方法	14
11. 管理運営	14
(1) 大学評議会	14
(2) 学部教授会	14
(3) 学部長会	15
(4) 諮問委員会	15
12. 自己点検・評価	16
(1) 自己点検・評価の取組	16
(2) 自己点検・評価の実施体制	16
(3) 認証評価	17
(4) 改善活動への取組	17
13. 情報の公表	18
(1) 公表の取組	18
(2) 情報提供媒体及び項目	19
14. 授業内容及び方法の改善を図るための組織的な取組	19
15. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	20
(1) 教育課程内の取組	20
(2) 教育課程外の取組	20
(3) 適切な体制の整備	20

設置の趣旨等を記載した書類

1. 設置の趣旨及び必要性

(1) 明星大学の教育目標と教育内容及び教育方法

「和の精神のもと、世界に貢献する人を育成する」を建学の精神とする学校法人明星学苑が、その理念を高等教育の場を通して実現するために設立したのが明星大学である。明星大学は、設立母体である明星学苑の建学の精神に則り「自己実現を目指し社会貢献ができる人の育成」を教育目標とし、この目標を大学における教育研究を通して実現するために設立された。

明星大学のこの教育目標は、以下の教育内容と教育方法をもって達成される。

ア 現代社会に生きるものとして必要不可欠な基本的知識と技能の習得

イ 幅広い教養を身につけた自立する市民の育成

ウ 心と体の健康管理の教育

エ 高度専門職業人及び幅広い職業人の育成

オ 生涯に亘る学習意欲の獲得と、自らの歴史を綴ることが出来るようにする教育
大学の教育目標に則したこれらの教育内容と教育方法は、高等教育の特質である高度に分科した各専門分野における教育研究活動を通して具体化され得る。

そこで、本学は人文学、理工学、情報学、経済学、経営学、教育学、デザイン学における教育研究活動を通して、教育目標を実現化しようとするものである。

(2) デザイン学部設置の趣旨及び必要性

大学におけるこれまでの美術・デザイン分野の教育は、「モノづくり」を中心に捉え、制作技術の指導に多くの時間を費やしてきた。しかしながら昨今の社会経済環境の変化に伴い、今日の大学教育に求められているものは、優れた制作技術を備えた少数の人材を育てることではなく、新たな価値を生み出す力を養い、全ての学生を社会や企業の中で必要とされ、経済的に自立しうる社会人及び職業人として育て上げることにある。

また、我が国のグローバル化の進展や産業構造の急激な変化に伴い、美術・デザイン分野においては、専門的な制作技術以上に、新たな価値を生み出すための「企画を立てる力」と、その企画内容を美しくかつ明快に「表現する力」が求められており、これらを統合した本当の意味での「デザイン力」を備えた人材の養成こそが必要とされている。

本学では、平成4年4月に設置した日本文化学部生活芸術学科以来、美術教育を中心に取り組み、その後、平成17年4月に造形芸術学部へ改組し、徐々に教育の比重を美術教育からデザイン教育へ移行してきたが、今回、社会や企業が求める「企画力」と「表現力」を備えた有為な人材を養成するため、平成26年4月に既存の造形芸術学部を改組し、新たに「デザイン学部」を設置するものである。

なお、デザイン学部は「デザイン学部 デザイン学科」の1学部1学科で組織し、入学定員は、造形芸術学部の定員90人から30人増員して120人とし、収容定員は480人とする。

(3) 教育研究上の目的と養成する人材

デザイン学部では、既存の造形芸術学部が培ってきた美術・デザイン分野の教育研究を踏まえ、デザインの基盤となる理論及び技術に加え、グラフィック・マンガ・メディアの3つのデザイン分野を対象とする「視覚デザイン」と、プロダクト・インテリア・ファッションの3つのデザイン分野を対象とする「生活デザイン」を教育研究の柱に置きながら、具体的かつ実践的な課題に取り組む企画表現科目による教育を通じて、「企画力」と「表現力」の養成に取り組む。

デザイン学部は、これらの教育研究を通じて、実践的な「企画力」と「表現力」を身につけ、優れた「デザイン力」をもってヒト・コト・モノの豊かな関係を築き、新たな価値を生み出すことのできる人材を養成する。

具体的な人材像は以下の通りである。

- ア デザインの本質の1つである実現可能な「企画」を提案する能力と様々な分野に応用・展開できる能力を身につけた人材。
- イ 培われた説得力のある「表現力」を発揮して、社会に貢献できる基礎能力を身につけた人材。
- ウ あらゆる場面で「企画力」と「表現力」を活かし、社会における自分の責任と価値を見いだすことのできる人材。

2. 学生確保の見通しと社会的な人材需要

(1) 学生確保の見通し

デザイン学部は、既存の造形芸術学部を改組することによって、教育目標や養成する人材像が明確となるほか、社会や企業で活躍する人材の養成を強く打ち出すことで、受験生への訴求力が高まるものと考えている。また、既存の美術・デザイン系大学との違いを明確化し、総合大学に設置する新しい学部であることを訴求することによって、従来の美術・デザイン分野を目指す受験生に加え、他の分野を目指す学生の志願も期待することが出来る。

本学が、平成25年4月及び6月に実施したオープンキャンパスの受験生アンケートでは、既に延べ100人を超える学生が興味のある学部としてデザイン学部を上げている。また、平成25年4月から113校の高等学校へ訪問した結果によれば、美術・デザイン系学部を目指す学生は、大部分の訪問校において、「本学デザイン学部への進学希望者がいる」「本学デザイン学部を勧める」等、訪問校のうち、概ね2割の高等学校からデザイン学部に対して積極的な意見が寄せられている。

さらに、近隣5大学の美術・デザイン系学部における平成24年度入試結果をみると、志願者数16,810人、合格者数5,283人、平均受験倍率は3.2倍に及び、本学近隣には美術・デザイン系学部を志願する学生だけでも相当数の志願者が存在する。

これらのことからデザイン学部においては、学生は充分確保できるものと考えている。

なお、入学定員の設定に当たっては、これら学生確保の見通しをはじめ、既存の造形芸術学部（入学定員90人）の学生募集の状況、大学全体の定員規模等を総合的に判断して120人とした。

【資料1 受験生アンケート及び高等学校訪問の結果】

(2) 人材需要と卒業後の進路

① 人材需要

平成 24 年 6 月に産業構造審議会新産業部会がまとめた「経済社会ビジョン」では、経済成長ビジョンと人を活かす社会ビジョンの 2 つの大きな方針が示され、その中で、今後の企業活動については、「大量生産・価格競争」モデルから「価値創造」モデルへの転換の必要性が述べられており、我が国の優れた文化や感性をビジネスに変えて行くことが強く求められている。

また、「経済社会ビジョン」では、2010 年から 2020 年までに「価値創造」等をリードする新産業が創出された場合には、1,000 万人規模の就業者数が増加すると試算しており、そのうち、デザイン設計業を含む対事業所サービスについては、300 万人を超える就業者数が増加すると試算している。

デザイン学部が養成する人材は、まさに「経済社会ビジョン」が掲げる「価値創造」の一翼を担う人材であり、人材需要は充分見込めるものと考えている。

② 卒業後の進路

デザイン学部の卒業後の進路については、「企画力」と「表現力」を備え、新たな価値を生み出す人材を養成することにより、幅広い進路が考えられる。具体的には、視覚デザイン分野及び生活デザイン分野におけるデザイナー、プランナー、プロデューサーとしての進路に加え、出版関係、広告代理店、情報関連産業、各種メーカー等への就職、その他、企業における企画部門をはじめ、広報・広告部門、販売・営業部門での活躍が期待される。さらには、デザイン学部及び大学全体で組織的に学生の社会的・職業的自立に関する指導に取り組むことにより、就職先は充分確保できるものと考えている。

3. デザイン学部の特色

デザイン学部は、既存の造形芸術学部の美術・デザイン分野の教育研究を踏まえ、デザイン分野をより発展させながら、「企画力」と「表現力」の養成に重点を置いた教育研究に取り組む。

具体的には、デザインの基盤となる理論及び技術を共通的に教育し、デザインの基礎・基本を確実に習得させながら、「視覚デザインコース」「生活デザインコース」の 2 つのコースを設け、学生の興味・関心や卒業後の進路に応じてコースを選択させ、それぞれのデザイン分野の知識・技術を深めさせる。

また、デザインの理論や技術、デザイン分野の専門的な教育と並行して企画表現科目を配置し、具体的かつ実践的な課題に取り組むことにより、「企画力」と「表現力」を養い、「企画力」はその基盤となる分析力・発想力・統合力の 3 つの力を養うことによって実現し、「表現力」は美的構成力・コミュニケーション力・プレゼンテーション力の 3 つの力を養うことによって実現する。

デザイン学部では、これら 6 つの力を養うため、体系的に教育課程を編成し、体験型授業を多数配置するとともに、教員相互の連携・協力による組織的な教育方法を導入する。

これら特色ある教育を実施することにより、「企画力」と「表現力」を備えた有為な人材を養成する。

4. 学部、学科の名称及び学位の名称

(1) 学部、学科の名称

学部、学科の名称は、学部の趣旨、教育研究分野、国際的通用性の観点から教育研究目的を的確に表わしている「デザイン学部 デザイン学科」とし、学部の英訳名称は「School of Design」、学科の英訳名称は「Department of Design」とする。

(2) 学位の名称

学位の名称は、学部の趣旨、教育研究分野、学部・学科構成及びその名称を踏まえ、学士（デザイン学）とし、英訳名称は「Bachelor of Arts in Design」とする。

5. 教育課程の編成の考え方及び特色

(1) 教育課程編成の基本的な考え方

本学の教育目標である「自己実現を目指し社会貢献ができる人の育成」を達成するとともに、「企画力」と「表現力」を身につけた有為な人材を養成するため、デザイン学部では、以下のカリキュラムポリシーを掲げ、教育課程を編成する。

【カリキュラムポリシー】

総合的なデザイン力を錬磨する理論や2コースの専門的な体験的実習を横軸に、その力を社会に繋げる「企画力（分析力・発想力・統合力）」と「表現力（美的構成力・コミュニケーション力・プレゼンテーション力）」を錬磨する「企画表現科目」を縦軸として、社会への発信力を養う。

教育課程の編成に当たっては、大きく基礎学力と教養を養う「全学共通科目」、社会人としての自立できる能力と意欲を養う「全学共通社会的・職業的自立促進科目」、デザインの専門知識を学ぶ「学科科目」の3つに区分し、デザイン学部の人材養成に必要な授業科目を配置する。

教育課程編成の概要は以下の通りである。

全学共通科目	自立と体験 1
	人間を考える
	言葉とコミュニケーション
	歴史と文化を知り、創る
	社会の営みを理解する
	自然と科学を理解する
全学共通社会的・職業的自立促進科目	自立と体験 3・4
学科科目	理論科目
	技術科目
	企画表現科目
	視覚デザインコース科目
	生活デザインコース科目
	キャリア科目（「自立と体験 2」を含む）
	デザインビジネス科目
	卒業研究

(2) 教育課程編成の特色

① 全学共通科目

「全学共通科目」は、本学の全学生が学部学科の所属を越えて学修する科目区分であり、「現代社会に生きるものとして必要不可欠な基本的知識と技能の習得」「幅広い教養を身につけた自立する市民の育成」「心と体の健康管理の教育」の3つを教育目的としている。

この教育目的を実現するため、「全学共通科目」には、「自己実現を目指す」第一歩であり、かつ初年次教育の中核として、高校生から大学生への学習・生活へとスムーズな移行を支援する科目として「自立と体験 1」を配置するとともに、「人間を考える」「言葉とコミュニケーション」「歴史と文化を知り、創る」「社会の営みを理解する」「自然と科学を理解する」の6つの科目区分を設け、総合大学としての特色を活かし、幅広く授業科目を配置する。

各科目区分に配置する授業科目の特色は以下の通りである。

ア 自立と体験 1

他者との関わりを通して自己理解を深め、大学で学ぶ自分自身を理解することを目的とした授業科目であり、必修科目として配置する。

イ 人間を考える

心と体の健康管理の教育としての「健康・スポーツ科学論」「健康・スポーツ演習 1~4」「哲学 1・2」「心理学 1・2」等の授業科目を配置する。

ウ 言葉とコミュニケーション

現代社会に生きるものとして必要不可欠な基本知識と技能の習得を目指し、「情報リテラシー a・b」「外国語（英語） 1~4a・b」等の授業科目を配置する。

エ 歴史と文化を知り、創る

幅広い教養を身につけた自立する市民の育成を目指し、「日本事情 1・2」「文化人類学 1・2」「西洋の歴史と文化 1・2」等の授業科目を配置する。

オ 社会の営みを理解する

幅広い教養を身につけた自立する市民の育成を目指し、「社会の仕組みと人間の営み 1・2」「国際関係論 1・2」「情報社会文化論 1・2」等の授業科目を配置する。

カ 自然と科学を理解する

幅広い教養を身につけた自立する市民の育成を目指し、「地球惑星学 1・2」「科学技術論 1・2」「人類と環境」等の授業科目を配置する。

② 全学共通社会的・職業的自立促進科目

職業を持つ社会人として自立できる能力と意欲を育て、また、生涯を通じての継続的な学習意欲と就業力の育成を図るため、「自立と体験 3・4」の2科目を自由科目として配置し、全学共通科目の「自立と体験 1」、学科科目の「自立と体験 2」と連携させながら、体系的なキャリア教育に取り組む。

③ 学科科目

デザイン学部では、美術・デザイン教育を基本に置きながら、「企画力」の基盤となる分析力・発想力・統合力と、「表現力」の基盤となる美的構成力・コミュニケーション力・プレゼンテーション力の6つの力の養成に重きを置いた教育課程を編成する。

また、「視覚デザインコース」と「生活デザインコース」の2つのコースを設け、学生の選択により2年前期からコースに所属させる。

教育課程の編成に当たっては、「理論科目」「技術科目」「企画表現科目」「視覚デザインコース科目」「生活デザインコース科目」「キャリア科目」「デザインビジネス科目」

「卒業研究」の8つの科目区分を設け、授業科目を配置する。

各科目区分に配置する授業科目の特色は以下の通りである。

ア 理論科目

美術・デザイン分野の基礎理論を習得させる科目区分で、「デザイン概論」を必修科目として配置するほか、「色彩学」「デザイン史」「材料学」「美術史概論」等を選択科目として配置する。開講時期については、基礎理論を習得させるため、大部分を1・2年次に開講する。

イ 技術科目

デザインの表現に必要な技術を習得するための科目区分で、「表現基礎実習 A～G」の7科目を通じて基礎的な表現技術を習得させる。また、「コンピュータ表現基礎実習 1・2」を必修科目として配置し、コンピュータを利用した表現技術を習得させるほか、「材料加工実習 A・B・C」を配置して実際のモノづくりに必要な様々な材料の加工技術を体得させる。その他、「デザイン製図実習」「シナリオ制作実習」「サウンドデザイン実習」等を選択科目として配置し、表現技術の幅をさらに広げる。開講時期については、表現技術の基礎を習得させるため、理論科目同様に大部分を1・2年次に開講する。

ウ 企画表現科目

デザイン学部の4年間の教育で根幹となる科目区分で、「企画表現演習 1～7」の7科目を1年前期から4年前期の7セメスターに必修科目として配置する。「企画表現演習 1～3」は、主に企画や表現を行うための基本的な手法や技術の習得に主眼を置き、「企画表現演習 4～7」は、2コース6分野における専門教育と同時に履修させ、具体的かつ実践的な課題に取り組み、「企画力」と「表現力」を養い、最終的には個々の学生が取り組む「卒業研究」に繋げる。

エ 視覚デザインコース科目

1年後期に「視覚デザインコース基礎演習」を選択科目として配置し、視覚デザインコースを希望する学生に履修を義務づけ、コースが対象とするデザイン分野の特色について、オムニバス形式の演習を通じて理解させる。その上で2年前期からは「グラフィックデザイン」「マンガデザイン」「メディアデザイン」の3分野から選択履修させ、視覚デザイン分野の様々なデザイン手法を習得させる。また、コースの授業科目で習得した知識・技術を発展・応用させることを目的に、異分野を専門とする学生同士が連携・協働して企画提案を行う「視覚デザインコラボレーション」を選択科目として配置する。

オ 生活デザインコース科目

1年後期に「生活デザインコース基礎演習」を選択科目として配置し、生活デザインコースを希望する学生に履修を義務づけ、コースが対象とするデザイン分野の特色について、オムニバス形式の演習を通じて理解させる。その上で2年前期からは「プロダクトデザイン」「インテリアデザイン」「ファッションデザイン」の3分野から選択履修させ、生活デザイン分野の様々なデザイン手法を習得させる。また、コースの授業科目で習得した知識・技術を発展・応用させることを目的に、異分野を専門とする学生同士が連携・協働して企画提案を行う「生活デザインコラボレー

ション」を選択科目として配置する。

カ キャリア科目

全学共通科目の「自立と体験 1」及び全学共通社会的・職業的自立促進科目の「自立と体験 3・4」と連携し、デザイン学部の特色に応じてキャリア教育を行う「自立と体験 2」を必修科目として配置する。また、デザイン業界の実務家等をゲストスピーカーとして招聘し、授業を行う「デザインキャリア特別講義」と、実際の就業の場を体験する「インターンシップ」を選択科目として配置する。開講時期については、全学共通科目の「自立と体験 1」、全学共通社会的・職業的自立促進科目の「自立と体験 3・4」との接続性や実際の就職活動の時期を考慮し、それぞれ適切な開講時期を設定している。

キ デザインビジネス科目

理論科目をはじめ、技術科目やコース科目の履修を踏まえ、学生の興味・関心や卒業後の進路に応じて履修する科目区分で、「ポップカルチャービジネス論」「インターネットビジネス論」「ブランディング論」「デザインマネジメント論」等を選択科目として配置し、実社会やビジネスの現場におけるデザインの役割とその関係性について学ぶ。開講時期については、基礎理論、基礎技術、デザイン分野の専門的な学修を踏まえ、それらを発展・応用させるため、3・4年次に開講する。

ク 卒業研究

4年間の学びの集大成として「卒業研究」を必修科目として配置する。専任教員によるゼミ形式の指導を受けながら高度な企画提案に関する研究を行う。研究成果については、効果的で完成度の高いツールや模型等を用いたプレゼンテーションを行うとともに、研究報告書をまとめる。

【資料2 デザイン学部の教育理念・課程の概念図】

6. 教員組織の編成の考え方及び特色

(1) 教員組織編成の基本的な考え方

デザイン学部は、既存の造形芸術学部を改組して新たに学部を設置するため、造形芸術学部の専任教員13人（うち教授11人）*のうち、9人（同7人）をデザイン学部に移行する。また、デザイン学部設置に伴い新たに必要となる分野を中心に、新規に4人（同0人）の専任教員を採用し、計13人（同7人）で教員組織を編成する。

*学年進行中に定年退職する教員は含まない。

(2) 教員組織の特色

専任教員の専門分野については、基礎理論分野4人、視覚デザイン分野4人、生活デザイン分野4人、キャリア系分野1人とバランス良く配置しており、デザイン学部の教育研究に必要な教員組織を編成し、主要な授業科目には教授を適切に配置している。

完成年度における教員の年齢構成は、教授は55歳～68歳、平均年齢は60.6歳、准教授は42歳～56歳、平均年齢は47.2歳であり、教授、准教授ともに特定の年齢層に偏りなく、均衡の取れた年齢構成となっている。なお、本学の定年は、「学校法人明星学苑

明星大学定年規程」により、教育職員は 65 歳である。但し、教育職員のうち、平成 23 年 3 月 31 日までに就任した者は 70 歳と定めている。

取得学位については、博士 2 人、修士 4 人、学士 7 人で、教員組織全体では半数が修士以上の学位を取得している。職位別には、教授は修士 3 人、学士 4 人、准教授は博士 2 人、修士 1 人、学士 3 人となっている。

【資料 3 学校法人明星学苑明星大学定年規程】

7. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

(1) 教育方法

デザイン学部においては、授業科目毎の教育目標や特性に応じて、適切なクラスサイズを設定して教育を行う。主要な授業科目については、2 クラス開講とするほか、演習・実習科目については、複数の教員を配置して少人数教育を徹底し、学生と教員のコミュニケーションを重視した教育を行う。特に企画表現科目（企画表現演習 1～7）については、それぞれ 4～6 人の教員を配置し、グループワーク等を取り入れながら具体的かつ実践的な課題に取り組む。また、学生が短期間に集中して学習できるように Semester 制で授業を行う。

(2) 履修指導方法

履修指導は、新入生に対しては、入学時に新入生オリエンテーションや履修ガイダンスにおいて、履修モデル等を提示しながら履修指導を行う。

個別の履修指導は、専任教員をはじめ、教務企画課及び学部支援室の職員が適宜行い、履修指導や教育に関することはもとより、学生としての心構えや学生生活のあり方など、学生生活全般についてもアドバイスや助言を行う。

また、実際の履修に当たっては、履修登録単位数の上限を 45 単位に設定し、単位の実質化を図るとともに、学習成果の保証を行うため GPA 制度を活用する。

(3) 卒業要件

4年以上在学し、全学共通科目 32 単位以上、学科科目 92 単位以上、合計 124 単位以上を修得することを卒業要件とする。

科目区分毎の卒業要件単位数は以下の通りである。

科目区分		卒業要件単位数	
全学共通科目	自立と体験 1	2 単位	—
	人間を考える	3 単位以上	9 単位以上
	言葉とコミュニケーション	12 単位以上	
	歴史と文化を知り、創る	2 単位以上	
	社会の営みを理解する	2 単位以上	
	自然と科学を理解する	2 単位以上	
	小 計	32 単位以上	
全学共通社会的・ 職業的自立促進科目	自立と体験 3・4	—	—
学 科 科 目	理論科目	12 単位以上	20 単位以上
	技術科目	8 単位以上	
	企画表現科目	22 単位	
	視覚デザインコース科目	14 単位以上	
	生活デザインコース科目		
	キャリア科目	2 単位以上	
	デザインビジネス科目	6 単位以上	
	卒業研究	8 単位	—
小 計	92 単位以上		
合 計		124 単位以上	

(4) 卒業研究の単位数の設定

デザイン学部では、「卒業研究」を授業科目として配置し、専任教員が指導を行う。「卒業研究」は通年で開講し、8 単位を与える。

単位数の設定においては、大学設置基準第 21 条第 2 項の「単位数を定めるに当たっては、1 単位当たり 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して計算するものとする。」に基づいて設定を行った。

具体的には、1 年間の学内における専任教員の延べ指導時間、それに学生が自ら学内外で取り組む、調査・研究をはじめ、研究成果をまとめたプレゼンテーション資料及び成果報告書の作成のための延べ時間を合わせ、その総学修時間を基に単位数の設定を行った。

(5) 履修モデル

デザイン学部では、「視覚デザインコース」「生活デザインコース」の2つのコースを設け、学生の興味・関心や卒業後の進路に応じてコースを選択させ、より深く専門的に学ばせる。履修に当たっては、それぞれコース毎に履修モデルを提示し、モデルに沿った履修指導を行う。

履修モデルの概要は以下の通りである。

コース	モデル	概要
視覚デザインコース	A	グラフィックデザインを中心に履修し、広告代理店、企業の広報・広告部門への就職を目指すモデル
	B	マンガデザインを中心に履修し、出版関係への就職を目指すモデル
	C	メディアデザインを中心に履修し、情報関連産業への就職を目指すモデル
	D	視覚デザインコース科目を横断的に履修し、将来、視覚デザインのプランナーやプロデューサーを目指すモデル
生活デザインコース	E	プロダクトデザインを中心に履修し、各種メーカーのデザイナー、企業の企画部門への就職を目指すモデル
	F	インテリアデザインを中心に履修し、インテリア関係のデザイナー、企業の企画部門への就職を目指すモデル
	G	ファッションデザインを中心に履修し、ファッション関係のデザイナー、企業の企画部門への就職を目指すモデル
	H	生活デザインコース科目を横断的に履修し、将来、生活デザインのプランナーやプロデューサーを目指すモデル

【資料4 デザイン学部履修モデル】

8. 施設・設備等の整備計画

(1) 校地、運動場の整備計画

デザイン学部を設置する日野キャンパスは286,769㎡の敷地面積を持ち、うち74,314㎡が運動場用地として利用されている。校地には教育研究に必要な講義棟や実験・研究棟のほか、野球場、テニスコート、総合体育館が運動施設として整備されている。

また、平成16年から平成19年の間にキャンパス再開発を行い、ほぼバリアフリー化を実現し、学生が快適なキャンパスライフを送るために必要な空間や施設の充実を図ってきた。デザイン学部設置後においても既に整備されている校地、運動場をこれまでと同様に有効に活用していく。

(2) 校舎等施設の整備計画

デザイン学部は、青梅キャンパスの造形芸術学部を改組し、日野キャンパスに設置するため、既存の日野キャンパスの校舎を使用するとともに、デザイン学部の教育研究で主に使用する延べ床面積8,947㎡の32号館を新たに整備する。

校舎の利用に当たっては、全学共通科目及び全学共通社会的・職業的自立促進科目については、大小様々な教室を備えた既存の23号館、26号館、28号館を使用する。

学科科目については、既存の8号館と新たに整備する32号館を使用し、8号館は実技科目の各種実習を行う工房として使用し、実習に必要な機械・器具を整備している。

新たに整備する32号館には講義室3室、演習室12室、ゼミ室5室、教員研究室16室を整備するほか、PCルームをはじめ、模型工作室、デジタル工房、多目的展示スペース等、デザイン学部の教育研究に必要な教室と機械・器具を整備する。

なお、32号館は平成27年2月中旬に竣工し、学部開設2年目の平成27年4月から供用を開始するが、開設1年目は開講科目が限られており、また、既存の23号館、26号館、28号館が使用可能なことから、教育研究に支障はない。

(3) 図書等の資料及び図書館の整備計画

図書等の資料についても、既存学科において既に整備されていることから、それらを教育研究活動に有効に活用する。

日野校図書館には、約90万冊の図書と、約2千種の学術雑誌が既に所蔵され、教育研究活動に利用されている。

なお、日野校図書館は平成19年度に新館を設置し、6,813㎡の閲覧スペースとレファレンススペースや自習スペースを含めて728席の座席を確保するとともに、情報機能を強化するため、図書館内に114台のパソコンを整備し、データベースの利用やインターネット検索、電子ジャーナルの利用を可能にした。また、文献検索システムとしてはOPACを完備し、さらに、NACSISと連動しており、本学図書館に蔵書がない場合には、どの大学の図書館に所蔵されているかを検索の上、大学図書館間の相互貸借により閲覧することが可能になっている。

9. 入学者選抜の概要

(1) アドミッションポリシー

デザイン学部においては、以下のアドミッションポリシーを掲げ、このポリシーに基づき、「推薦入学試験」「AO入学試験」「一般入学試験」「大学入試センター試験利用入学試験」の試験区分を設けて入学者選抜を行い、多様な学生を受け入れる。

【アドミッションポリシー】

- ア 「ヒト・コト・モノ」の関係を探求し、自身のイメージにまとめた人
- イ 自ら「企画」し「表現」するデザインに強い意欲と高い志を持つ人
- ウ 美的感受性を社会活動につなげたい未来志向の人

(2) 試験の概要

① 推薦入学試験

推薦入学試験は本学の専願者（明星高等学校特別推薦入学試験を除く）に対して、公募制推薦入学試験、指定校制推薦入学試験、明星高等学校特別推薦入学試験、卒業生子女特別選抜入学試験、スポーツ・文化活動特別推薦入学試験の区分を設けて実施

する。募集人員の割合は 14.2%とする。

② A0 入学試験

A0 入学試験は本学の専願者を対象に出願時のエントリーシート、面接試験、小論文による総合的な評価を行う。試験は 9 月から 12 月の間に 3 回実施する。募集人員の割合は 29.2%とする。

③ 一般入学試験

一般入学試験は大学入学資格（見込みを含む）を有する者に対し、前期・中期・後期の 3 回実施する。前期及び中期は学力試験高得点 3 教科採用の成績で選抜する A 方式、高得点 2 教科採用の成績で選抜する B 方式とし、後期は 2 教科の成績で選抜する C 方式と、C 方式に大学入試センター試験 1 科目を加える CC 方式に区分し、試験区分毎に試験科目を定めて実施する。募集人員の割合は、下記④の大学入試センター試験利用入学試験を含め 56.6%とする。

④ 大学入試センター試験利用入学試験

大学入試センター試験利用入学試験は大学入学資格（見込みを含む）を有する者に対し、前期・中期・後期の 3 回実施する。前期は高得点 3 教科の成績により選抜し、中期及び後期は高得点 2 教科の成績により選抜する。

10. 企業実習の具体的計画

（1）実習の概要

デザイン学部では、キャリア科目の一つとして「インターンシップ」を 3 年前期に配置し、学内における事前学習の後、企業実習を行う。

学内の事前学習においては、インターンシップの目的、業界研究、自己分析、マナー講座など、企業実習に必要な基本的スキルを身につけるとともに、実習を通じて習得すべき知識・能力と自身の強み弱みを把握した上で、弱みを克服するための目標を設定し、実習に臨む。また、実習終了後は学内で成果発表を行う。

（2）実習先との連携体制

実習先となる企業については、あらかじめインターンシップの実施及び学生の受け入れに関する協定を結び、受け入れ人数、受け入れ時期等を調整しながら実施する。

学生の派遣先については、学内においてインターンシップマッチング会等を開催し、学生と企業の担当者が事前に情報交換できる場を設けるなど、学生が就業内容を把握した上で実習に参加させる。

また、実習の実施期間中は、専任教員が実習先の企業等を巡回し、学生の取組状況を確認するとともに、企業の担当者から直接話を聞く機会を設ける。

(3) 成績評価体制

インターンシップについては、成績の評価項目、評価基準を明確に設定し、その基準に基づいて適切に評価を行う。また、実習の受け入れ企業等に対しては、事前に説明会を開催し、学生の指導方法等について共通化を図る。

(4) 単位認定方法

単位認定に当たっては、事前学習における目標の設定、企業実習の取組、事後学習における成果発表の結果等を総合的に評価し、単位認定を行う。

【資料5 インターンシップ受け入れ企業一覧】

11. 管理運営

本学では、教学に関する管理運営を適切に行うため「明星大学学則」において、以下の会議体等の設置を定め、大学運営に関する審議等を行っている。

(1) 大学評議会

大学評議会は、大学評議会運営細則に則り、学長が招集し、全学的重要事項を審議する。構成員及び審議事項は以下の通りである。

○構成員：学長、副学長、学部長、大学院研究科長、通信教育課程長、全学共通教育委員会委員長、図書館長、各学部所属教授各2名及び全学共通教育委員会所属教授3名。

○審議事項：ア 教育、研究に関する全学的重要事項
イ 学則その他重要な規則に関する全学的共通事項
ウ 学生の厚生補導及びその身分の基準に関する事項
エ 全学共通科目及び全学的な資格科目に関する事項
オ その他必要と認められる事項

(2) 学部教授会

学部教授会は、教授会運営細則に則り、学部長が招集し、当該学部の教育研究、学籍、学生補導、教員人事等に関する事項を審議する。

また、教授会を円滑に運営するための教授会運営委員会のほか、必要に応じて各種委員会（教務・入試・学生生活・就職指導・教職課程・規程・自己点検評価・FD等）を置くことができるとしている。

なお、教員の採用・昇任に関わる事項については、人事選考委員会を置かなければならないこととしている。学部教授会の構成員及び審議事項は以下の通りである。

○構成員：当該学部にも所属する専任の教授、准教授、講師、助教。ただし、教員の人事に関する審議に当たっては、教授のみを構成員とする。

○審議事項：ア 教育及び研究に関する事項
イ 教育課程、授業及び試験に関する事項
ウ 入学・卒業等に関する事項
エ 休学、退学に関する事項

- オ 学生補導、賞罰に関する事項
- カ 学則及び教則に関する事項
- キ 教員の人事に関する事項
- ク 学部長候補の選考に関する事項
- ケ 当該学部の教育研究予算に関する事項
- コ その他教授会が必要と認める事項

(3) 学部長会

学部長会は、学長が招集し、大学全体の運営に関する事項を連絡調整する。構成員は以下の通りである。

- 構成員：学長、副学長、学部長、全学共通教育委員会委員長、大学院研究科長、通信教育課程長、事務局長、その他学長が必要と認めた教職員。

(4) 諮問委員会

諮問委員会は、学長が必要に応じて設置できる委員会として学則に規定されている。諮問委員会は恒常委員会と臨時委員会に区分され、恒常委員会の構成員は原則として、学部を代表する教員、学長が指名する副学長及び学長が必要と認めた者で組織される。臨時委員会の構成員は委員会を組織する際、学長が指名する。恒常委員会、臨時委員会とも委員長は学長が指名し、委員長が委員会を招集し、議長となる。

委員会は諮問事項に対して定められた期日までに学長に答申し、当該答申は必要に応じて学部教授会、研究科委員会又は大学評議会において協議される。

現在設置されている諮問委員会は以下の通りである。

- ア 大学規程整備委員会
- イ 全学教務委員会
- ウ 明星大学自己点検・自己評価基本方針策定委員会
- エ 全学自己点検・評価実施委員会
- オ 全学入試運営委員会
- カ 明星大学全学ウェブサイト管理委員会
- キ 明星大学キャンパス開発委員会
- ク 全学学生生活委員会
- ケ キャンパス・ハラスメント防止・対策委員会
- コ 明星大学個人情報運用管理委員会
- サ 海外研修危機管理委員会
- シ 明星大学研究費不正使用防止・対策委員会
- ス 全学FD委員会
- セ 全学就職委員会

臨時委員会については、大学運営に必要となる委員会をその都度設置している。

以上の通り、学則及び各会議体の運営細則に則り、大学評議会や学部教授会その他の会議体で審議や協議等を行い、それに従った大学運営を行うことにより、学部等の独自

性を担保しつつも大学全体を円滑かつ適切に管理運営する体制が整備されている。

また、事務組織としては教務企画課や学生サポートセンター、キャリアセンター等の全学を対象として業務を行う部署のほか、学部支援室を学部毎に設置し、学部長秘書業務、教授会運営事務、教員の教育研究活動支援、所属学生の学習・生活面の支援・指導など当該学部等を円滑に運営・支援する体制を整備している。

【資料6 学内諮問委員会の所管事項等】

12. 自己点検・評価

(1) 自己点検・評価の取組

本学における自己点検・評価の取り組みは、平成8年度より学部学科単位で恒常的に行ってきたが、全学の横断的な事項に対応するため、平成12年度に全学的な自己点検・評価委員会を設置し、大学全体、学部・研究科単位及び通信教育部での点検・評価活動を行い、その結果については逐次報告書を作成し刊行してきた。

平成15年度の学校教育法の一部改正により、全ての大学に対して認証評価機関による評価（以下「認証評価」）が義務付けられたことから、これまでの本学の自己点検・評価の活動をさらに組織的、継続的に実施する体制を整備するために、「明星大学自己点検・評価規程」及び「明星大学自己点検・評価委員会細則」を各教授会等の議を経て平成15年9月に制定した。

(2) 自己点検・評価の実施体制

明星大学自己点検・評価規程に則り、①自己点検・評価基本方針策定委員会（以下「基本委員会」）、②全学自己点検・評価実施委員会（以下「全学委員会」）、③部局別自己点検・評価委員会（以下「部局別委員会」）を組織し、自己点検・評価の実施体制を整備した。

また、規程の制定を機に、部局が独自に定めていた点検・評価項目を、後述する認証評価機関の定める項目に全学的に統一した。

各委員会の構成員と役割は、それぞれ以下の通りである。

① 基本委員会

- 構成員：学長が指名する副学長、学生部長、事務局長、学長が指名する者若干人。
- 役割：ア 自己点検・評価の基本方針の策定
イ 自己点検・評価項目に基づく細目の設定
ウ 評価基準の設定
エ その他自己点検・評価に関する基本事項の策定

② 全学委員会

- 構成員：副学長、学部長及び学部長指名の教員若干人、研究科長及び研究科長指名の教員若干人、全学共通教育委員会委員長及び委員長指名の教員若干人、学生部長、事務局長及び事務局長指名の職員若干人、学長が指名する教職員若干人。

- 役 割：ア 全学的自己点検・評価の実施
- イ 部局別自己点検・評価結果の検証
- ウ 自己点検・評価報告書の編集

③ 部局別委員会

- 構成員：各部局の長・各部局の長が指名する教職員（3～5人）。
- 役 割：ア 各部局別自己点検・評価の実施
- イ 自己点検・評価の全学委員会への報告
- 部局の単位：学部、大学院研究科、全学共通教育、通信教育部、図書館、附属研究機関、学生生活、事務局。

（3）認証評価（学校教育法第109条2項への対応）

認証評価については、平成15年度に全学的な自己点検・評価に係る規程と実施体制が整ったことを踏まえて、平成17年度に財団法人大学基準協会の認証評価を受けることが、大学評議会の議を経て、理事会で承認された。

同協会の定める点検・評価項目（①理念・目的・教育目標、②教育研究組織、③教育研究の内容・方法、④学生の受入、⑤教育研究のための人的体制、⑥研究活動と環境、⑦施設・設備等、⑧図書館、⑨社会貢献、⑩学生生活、⑪管理運営、⑫財務、⑬事務組織、⑭自己点検・評価、⑮情報公開・説明責任）について、自己点検・評価に係る各委員会を中心に全学的（通信教育部を含む）に作業を行い、平成17年3月に『明星大学自己点検・評価報告書』を作成した。

同報告書をもって、当初の計画通り財団法人大学基準協会の認証評価を申請し、平成18年3月に同協会の定める「大学基準」に適合していると認定され、正会員として承認された。（認証期間：平成18年4月～平成23年3月）

また、認証期間が平成23年3月までとなることから、平成22年度には法令で定める期間（7年間）の経過を待たずに大学評価を受けることとし、前回同様に財団法人大学基準協会が定める点検・評価項目（15項目）について全学で作業を実施し、平成22年3月に大学評価申請用『明星大学自己点検・評価報告書』を作成、同協会に提出した。

その後、平成22年10月の日野校及び青梅校の現地視察を経て、平成23年3月には、引き続き同協会が定める「大学基準」に適合していることが認定された（認証期間：平成23年4月～平成30年3月）。

なお、今回の大学評価にあたって作成した『明星大学自己点検・評価報告書』の全文は、同協会からの助言・勧告事項を含めた『大学評価結果』とともに本学のホームページ上に掲載し、広く社会一般に公開している。

（4）改善活動への取組

平成22年度の大学評価において、財団法人大学基準協会より指摘された助言・勧告事項については、直ちに各部局にフィードバックし、平成23年9月までに全学及び各部局で具体的な改善計画を作成した。その後、その計画に基づいて順次改善活動に取り組み、平成26年3月までには改善を完了、同年7月までに同協会へ『改善報告書』を

提出する予定である。

一方、本学では、点検・評価活動をより効率的に実行するために、全学はもちろん、各学部学科が自主的に自己改善を行う仕組みとして『MI21 プロジェクト (Meisei Innovation for the 21st Century)』を、平成 22 年度より本格的に導入している。具体的には、まず全学レベルで本学の教育目標達成に向けての指針となる全学戦略マップを構築、それをもとに B S C (Balanced Score Card) の手法を用いて数値目標を設定、全学及び各部局で目標達成に向けて取組を推進するというものである。さらにはこの全学の指針をもとに、各学部学科等が戦略展開単位を形成、それぞれが戦略マップと B S C を構築し、全学と同様の取組を進めている。

本プロジェクトでは、年度単位で個々の取組の結果を検証することで、組織としての所謂 P D C A サイクルを確立、点検・評価・改善活動を効率的かつ永続的に行う仕組みとして、全学で推進している。

デザイン学部開設後も引き続き全学で定期的に自己点検・評価を実施するとともに、定期的に認証評価を受け、不断の改善・改革に取り組むこととする。

13. 情報の公表

(1) 公表の取組

在学生やその保護者、受験生のほか、広く一般社会へ情報を提供するため、本学では各種刊行物に加え、W E B 環境を活用した情報発信も積極的に行っている。

大学全体及び学部・学科における教育研究上の目的（人材養成の目的を含む）・目標・計画、大学への入学や学習機会に関する情報、学生の知識・能力の修得水準に関する情報（成績評価方針・基準）、卒業生の進路状況に関する情報、研究内容と成果の概要、社会活動及び財務状況に関する情報等については、従来より、在学生その他、広く社会に対し、積極的に情報を提供するよう努めてきた。

特に近年では、W E B 環境が加速度的に整備されたことから、大学側からの一方向の情報発信だけではなく、本学ホームページを通じた双方向的な環境整備も行い、常に情報を受ける側からの意見・要望等も重視しながら、情報提供内容の充実を図っている。

平成 22 年度には、学校教育法施行規則の改正を受け、本学の教育情報を適切に公表するため、「情報公開に関する検討委員会」を設置し、以下の取組を行った。

- ・本学の教育情報の公表に係る現状把握と課題の抽出
- ・教育情報の公表基準等の策定
- ・専任教員に係る情報（研究教育業績・学位等）の全学的な統一
- ・必要な教育情報のウェブサイトにおける公表

これら情報発信に係る積極的な対応は、教育研究機関としての説明責任を果たす上でも重要な役割であるとともに、教育研究成果の公表による社会貢献の一環としても位置づけ、社会からの付託に応え、教育研究機関としての信頼されるための証であると考えている。

(2) 情報提供媒体及び項目

① 大学案内

教育研究上の目的(人材養成の目的を含む)・目標・計画、大学への入学や学習機会、学生生活に関する情報、大学の施設・設備に関する情報、卒業生の進路状況に関する情報、大学での研究課題等。

② 履修の手引き

教育研究上の目的(人材養成の目的を含む)・目標・計画、学生の知識・能力の修得水準(成績評価方針・基準)等に関する情報、学則等。

③ 入学試験要項

大学への入学や学習機会に関する情報、学納金等。

④ 大学ホームページ

教育研究上の目的(人材養成の目的を含む)・目標・計画、授業計画(シラバス)、大学への入学や学習機会に関する情報、学生の知識・能力の修得水準に関する情報(成績評価方針・基準)、各教員の研究に関する情報、卒業生の進路状況に関する情報、大学での研究課題に関する情報等、自己点検・評価報告書。

(大学：<http://www.meisei-u.ac.jp>)

⑤ 自己点検・評価報告書

本学の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動及び社会貢献への活動等の状況について、全学又は部局単位で点検・評価を行った情報等(認証評価機関の定める項目に従った大学運営全般に関する情報)。

その他、本学を設置している学校法人明星学苑のホームページ上で、事業計画書や事業報告書の公開を通して財務状況(財産目録・貸借対照表・資金収支計算書・消費収支計算書)や学生情報(収容定員・在籍者数等)に関する情報を提供している。

(学苑：<http://www.meisei.ac.jp>)

14. 授業内容及び方法の改善を図るための組織的な取組

本学では、教員の教育に関する資質を向上させ、授業内容・方法を改善するために、平成19年度より学長の諮問委員会として「全学FD委員会」を設け、全学的FD活動の実施や部局別FD活動の指針となる全学的基本方針を策定するなど、全学をあげて組織的な取組を行っている。また、平成21年度に整備した「明星大学ファカルティ・デベロップメントに関する規程」では、「全学FD委員会」及び「部局別FD委員会」の役割を明確にした。

「全学FD委員会」では、全学的なFD活動のための基本方針の策定、全学的なFD研修の企画・実施・評価、新任教員に対する研修、授業に関する学生アンケート(授業評価)に関する企画・活用方法の検討、部局別FD研修への助言等を行い、「部局別FD委員会」は学部・研究科・全学共通教育委員会・通信教育課程の単位で設置され、部局で行うFD

研修の企画・実施評価、学生による授業アンケート（授業評価）の部局における活用方法の検討等を行うこととし、より組織的かつ継続的にFD活動を実施できるよう体制を整備している。

なお、平成15年度から全学的に実施している「学生による授業アンケート（授業評価）」結果の活用については、各教員へフィードバックするとともに、それぞれの部局単位で教員相互に活用して部局全体の授業改善の施策を講じるようにしている。

デザイン学部においても学生自身の学び方や学習支援策等についてFDを行うとともに、学生の授業アンケート結果等を活用しながら教員の資質の維持向上を図る。

15. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

（1）教育課程内の取組

本学では、全学共通科目に「自立と体験1」を配置し、1年生を対象に、学生としての自分自身を理解させ、自身の理想や目的を明確にすることを教育目標に掲げ、必修で履修させる。また、全学共通社会的・職業的自立促進科目には、「自立と体験1」に続く授業科目として「自立と体験3・4」を配置し、職業を持つ社会人として自立できる能力と意欲を育て、また、生涯を通じての継続的な学習意欲と就業力の育成を図る。

デザイン学部の学科科目においては、他学部同様に「自立と体験1」に続く授業科目として、キャリア科目に「自立と体験2」を配置しており、コミュニケーションやプレゼンテーションの原点となる表現力を養い、社会における自己表現能力の涵養を図る。

その他、キャリア科目には「デザインキャリア特別講義」及び「インターンシップ」を配置し、「デザインキャリア特別講義」では、社会で活躍するデザイナーをはじめ、プランナー、企業経営者、編集者、ディレクター等をゲストスピーカーとして招聘し、実際の仕事の解説とディスカッションを通じて実社会の理解を深める。また、「インターンシップ」では、企業等における実際の就業体験を通じて、就業意識を高め、自分自身の就業感を確立させる。

（2）教育課程外の取組

既存の造形芸術学部においては、産学官の連携プロジェクトに積極的に取り組み、地域活性化や商品企画に関する各種プロジェクトに学生を参加させている。

学生をプロジェクトに参加させ、直接、地元自治体の職員や企業の社員と接する機会を設けることにより、学生はプロジェクトを実施・完成させるためのプロセスを学ぶと同時に、その過程で実社会と直接向き合うことによって、社会人に求められる知識・能力とは何かを体得する絶好の機会となっている。

デザイン学部においても、引き続き地元の自治体や企業との連携プロジェクトに積極的に取り組み、学生の能力開発に繋がる仕組みや方法を構築し、学生のさらなる能力開発に努める。

（3）適切な体制の整備

本学では、事務局にキャリアセンターを設置しており、職員11人（うちキャリアカウ

ンセラー3 人を含む) を配置し、教員をはじめ、教務企画課、学生サポートセンター、各学部支援室と連携しながら、学生相談、就職斡旋、求人票管理、学生へのデータ提供、企業応対、資格・就職試験対策講座の企画運営等に取り組み、学生の基礎学力の向上から社会人としての将来設計まで、学年を問わず学生支援を行う。

資 料 一 覧

- 資料 1 受験生アンケート及び高等学校訪問の結果
- 資料 2 デザイン学部の教育理念・課程の概念図
- 資料 3 学校法人明星学苑明星大学定年規程
- 資料 4 デザイン学部履修モデル
- 資料 5 インターンシップ受け入れ企業一覧
- 資料 6 学内諮問委員会の所管事項等

受験生アンケート及び高等学校訪問の結果

○オープンキャンパス 受験生アンケート結果

実施日	有効回答数	Q6 興味のある学部について		
		デザイン学部	その他の学部	未定
平成 25 年 4 月 21 日 (日)	490	30	793	14
平成 25 年 6 月 16 日 (日)	780	77	1,221	17
合 計	1,270	107	2,014	31

※複数回答可

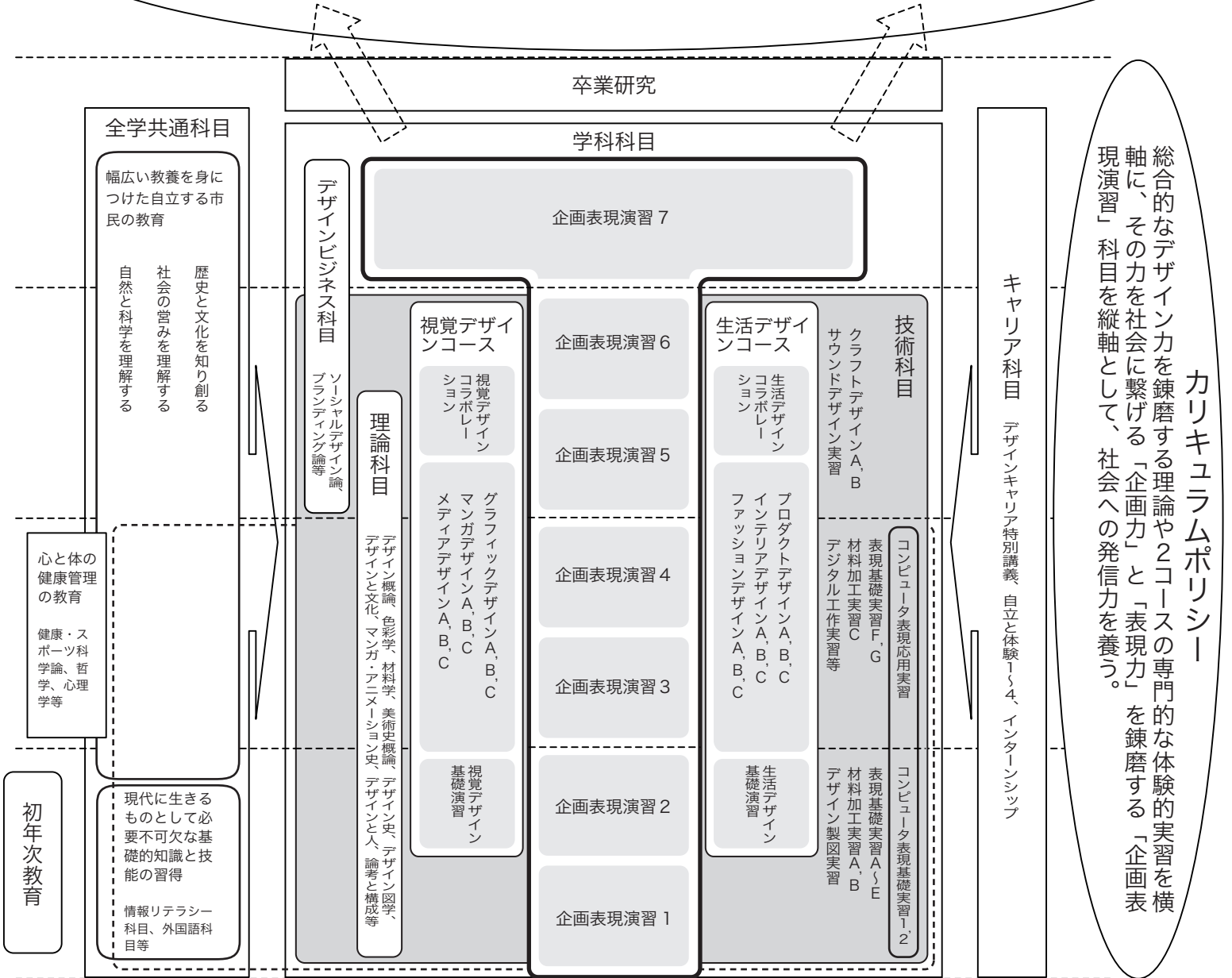
○高等学校訪問結果

高等学校数	本学デザイン学部への進学等について			
	進学希望者が いる	学生に進学を 勧めたい	学生が志願する 可能性がある	その他の回答
113 校	2	9	10	92
	21			

※訪問時期：平成 25 年 4 月 8 日 (月) ～5 月 17 日 (金)

ディプロマポリシー

総合的なデザイン力としての、「企画力（分析力・発想力・統合力）」と「表現力（美的構成力・プレゼンテーション力・コミュニケーション力）」をもって社会に貢献できる実践的な能力を身につける。



アドミッションポリシー

- ① 「ヒト・コト・モノ」の関係を探求し、自身のイメージにまとめたい人。
- ② 自ら「企画」し「表現」するデザインに強い意欲と高い志を持つ人。
- ③ 美的感受性を社会活動につなげたい未来志向の人。

○学校法人明星学苑明星大学定年規程

〔昭和49年4月1日〕
制 定

（趣旨）

第1条 明星大学（以下「本学」という。）に勤務する教職員の定年退職は、この規程による。

（定年）

第2条 教職員の定年を次のように定める。

- | | |
|---------------|-----|
| (1) 教育職員 | 65歳 |
| (2) 事務職員 | 65歳 |
| (3) 技能職員・厚生職員 | 62歳 |
| (4) 用務職員 | 62歳 |

（退職の日）

第3条 定年退職の日は、定年に達した学年度の末日とする。

（適用除外）

第4条 法人の理事たる教職員の退職については、法人の理事会の決定による。

（改廃）

第5条 この規程の改廃は、理事会の議を経て、理事長が行う。

附 則

この規程は、昭和49年4月1日から施行する。ただし、昭和49年3月31日現在本学に勤務する教職員については、この規程を昭和52年4月1日から施行する。

附 則（平成22年4月1日）

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

教育職員の内、平成23年3月31日までに就任した者については第2条第1項に拘わらず定年年齢を70歳に達した年度末とする。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			履修モデル								備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	視覚デザインコース				生活デザインコース				
									モデルA	モデルB	モデルC	モデルD	モデルE	モデルF	モデルG	モデルH	
視覚デザインコース科目	視覚デザイン基礎演習	1後	2				○		2	2	2	2					2
	グラフィックデザインA	2前	4				○		4			4					
	グラフィックデザインB	2後	4				○		4								
	グラフィックデザインC	3前	4				○		4								
	マンガデザインA	2前	4				○			4							
	マンガデザインB	2後	4				○			4		4					
	マンガデザインC	3前	4				○			4							
	メディアデザインA	2前	4				○				4						
	メディアデザインB	2後	4				○				4						
	メディアデザインC	3前	4				○				4	4					
	視覚デザインコラボレーション	3後	2				○		2	2	2						
小計 (11科目)	—	0	40	0			—	16	16	16	14	0	0	0	0	2	
生活デザインコース科目	生活デザイン基礎演習	1後	2				○					2	2	2	2	2	2
	プロダクトデザインA	2前	4				○						4				4
	プロダクトデザインB	2後	4				○						4				
	プロダクトデザインC	3前	4				○						4				
	インテリアデザインA	2前	4				○							4			
	インテリアデザインB	2後	4				○							4			4
	インテリアデザインC	3前	4				○							4			
	ファッションデザインA	2前	4				○									4	
	ファッションデザインB	2後	4				○									4	
	ファッションデザインC	3前	4				○									4	4
	生活デザインコラボレーション	3後	2				○						2	2	2	2	2
小計 (11科目)	—	0	40	0			—	0	0	0	2	16	16	16	14	14	
キャリア科目	自立と体験2	1後	2				○		2	2	2	2	2	2	2	2	2
	デザインキャリア特別講義	2後	2				○			2	2	2	2	2	2	2	2
	インターンシップ	3前	2					○	2				2	2			
	小計 (3科目)	—	2	4	0			—	4	4	4	4	4	6	4	4	4
デザインビジネス科目	ポップカルチャービジネス論	3前	2				○		2	2	2	2				2	2
	照明演出論	3前	2				○				2	2	2	2	2		
	インタラクティブデザイン論	3前	2				○		2	2	2	2	2				2
	インターネットビジネス論	3後	2				○		2	2	2	2					2
	ブランディング論	3後	2				○		2	2	2			2	2		
	ソーシャルデザイン論	3後	2				○			2		2	2	2			2
	デザインマネジメント論	4前	2				○		2				2		2		
	デザインと法	4前	2				○		2	2	2	2	2	2	2	2	2
小計 (8科目)	—	0	16	0			—	12	12	12	10	10	8	10	10	10	
卒業研究	卒業研究	4通	8				○		8	8	8	8	8	8	8	8	8
	小計 (1科目)	—	8	0	0			—	8	8	8	8	8	8	8	8	8
計 (73科目)		—	36	144	0			—	92	92	92	92	92	92	92	92	92
合計									124	124	124	124	124	124	124	124	124

14単位以上

2単位以上

6単位以上

8単位

コース	モデル	概要
視覚デザイン	A	グラフィックデザインを中心に履修し、広告代理店、企業の広報・広告部門への就職を目指すモデル
	B	マンガデザインを中心に履修し、出版関係への就職を目指すモデル
	C	メディアデザインを中心に履修し、情報関連産業への就職を目指すモデル
	D	視覚デザインコース科目を横断的に履修し、将来、視覚デザインのプランナーやプロデューサーを目指すモデル
生活デザイン	E	プロダクトデザインを中心に履修し、各種メーカーのデザイナー、企業の企画部門への就職を目指すモデル
	F	インテリアデザインを中心に履修し、インテリア関係のデザイナー、企業の企画部門への就職を目指すモデル
	G	ファッションデザインを中心に履修し、ファッション関係のデザイナー、企業の企画部門への就職を目指すモデル
	H	生活デザインコース科目を横断的に履修し、将来、生活デザインのプランナーやプロデューサーを目指すモデル

デザイン学部 履修モデル(モデルA)

視覚デザインコース		モデルA		グラフィックデザインを中心に履修し、広告代理店、企業の広報・広告部門への就職を目指すモデル													
科目区分	1年		2年		3年		4年		合計	卒業要件							
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期									
全学共通科目	「自立と体験1(2単位)」、人間を考える(3単位以上)、言葉とコミュニケーション(12単位以上)、歴史と文化を知り、創る(2単位以上)、社会の営みを理解する(2単位以上)、自然と科学を理解する(2単位以上)、その他、全学共通科目全体から9単位以上、合計32単位以上。								32	32単位以上							
小計	10	10	8	4					32								
全学共通社会的・職業的自立促進科目				自立と体験3	(2)	自立と体験4	(2)			(4)	—						
学科科目	理論科目	デザイン概論	2	デザイン史	2	デザインと人	2	デザインと文化	2	デザインとテクノロジー	2	18	12単位以上				
		色彩学	2	美術史概論	2	視覚メディア論	2	日本・東洋美術史	2	論考と構成	2						
	技術科目	表現基礎実習A (平面構成)	1	表現基礎実習E (レンダリング・モデリング)	1	表現基礎実習F (印刷技法)	1	表現基礎実習G (彫塑)	1	サウンドデザイン実習	1	クラフトデザインB	12	8単位以上			
		表現基礎実習B (立体構成)	1	コンピュータ表現基礎実習2	1	コンピュータ表現応用実習	1	メディア表現実習	1	クラフトデザインA	1						
		表現基礎実習C (イメージ描画)	1	材料加工実習B (金属・樹脂・新素材)	1	材料加工実習C (土・ガラス)	1	シナリオ制作実習	1								
		表現基礎実習D (デッサン)	1	デザイン製図実習	1	デジタル工作実習	1										
		表現基礎実習1 材料加工実習A (紙・布・木)	1														
	企画表現科目	企画表現演習1	2	企画表現演習2	2	企画表現演習3	2	企画表現演習4	4	企画表現演習5	4	企画表現演習6	4	企画表現演習7	4	22	22単位
	視覚デザインコース科目			視覚デザイン基礎演習	2	グラフィックデザインA	4	グラフィックデザインB	4	グラフィックデザインC	4	視覚デザイン コラボレーション	2			16	14単位以上
						マンガデザインA		マンガデザインB		マンガデザインC							
						メディアデザインA		メディアデザインB		メディアデザインC							
	生活デザインコース科目			生活デザイン基礎演習		プロダクトデザインA		プロダクトデザインB		プロダクトデザインC		生活デザイン コラボレーション				0	
						インテリアデザインA		インテリアデザインB		インテリアデザインC							
						ファッションデザインA		ファッションデザインB		ファッションデザインC							
キャリア科目		自立と体験2	2		デザインキャリア 特別講義			インターンシップ	2					4	2単位以上		
デザインビジネス科目								ポップカルチャー ビジネス論	2	インターネットビジネス論	2	デザインマネジメント論	2		12	6単位以上	
								照明演出論		ブランディング論	2	デザインと法	2				
								インタラクティブ デザイン論	2	ソーシャルデザイン論							
卒業研究										卒業研究				8	8	8単位	
小計	11	11	13	12	19	10	8	8	92	92単位以上							
合計	21	21	21	16	19	10	8	8	124	124単位以上							

デザイン学部 履修モデル(モデルB)

視覚デザインコース		モデルB		マンガデザインを中心に履修し、出版関係への就職を目指すモデル								合計	卒業要件				
科目区分	1年		2年		3年		4年		合計	卒業要件							
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期									
全学共通科目	「自立と体験1(2単位)」、人間を考える(3単位以上)、言葉とコミュニケーション(12単位以上)、歴史と文化を知り、創る(2単位以上)、社会の営みを理解する(2単位以上)、自然と科学を理解する(2単位以上)、その他、全学共通科目全体から9単位以上、合計32単位以上。										32	32単位以上					
小計	10	10	8	4							32						
全学共通社会的・職業的自立促進科目				自立と体験3	(2)	自立と体験4	(2)				(4)	—					
学科科目	理論科目	デザイン概論	2	デザイン史	2	デザインと人	2	デザインと文化	2	デザインとテクノロジー	2	18	12単位以上				
		色彩学		美術史概論		視覚メディア論	2	日本・東洋美術史		論考と構成	2						
	技術科目	表現基礎実習A(平面構成)	1	表現基礎実習E(レンダリング・モデリング)		表現基礎実習F(印刷技法)	1	表現基礎実習G(彫塑)	1	サウンドデザイン実習	1	クラフトデザインB	12	8単位以上			
		表現基礎実習B(立体構成)		コンピュータ表現基礎実習2	1	コンピュータ表現応用実習	1	メディア表現実習	1	クラフトデザインA							
		表現基礎実習C(イメージ描画)	1	材料加工実習B(金属・樹脂・新素材)		材料加工実習C(土・ガラス)		シナリオ制作実習	1								
		表現基礎実習D(デッサン)	1	デザイン製図実習		デジタル工作実習											
		表現基礎実習1(紙・布・木)	1														
	企画表現科目	企画表現演習1	2	企画表現演習2	2	企画表現演習3	2	企画表現演習4	4	企画表現演習5	4	企画表現演習6	4	企画表現演習7	4	22	22単位
	視覚デザインコース科目			視覚デザイン基礎演習	2	グラフィックデザインA		グラフィックデザインB		グラフィックデザインC		視覚デザインコラボレーション	2			16	14単位以上
						マンガデザインA	4	マンガデザインB	4	マンガデザインC	4						
						メディアデザインA		メディアデザインB		メディアデザインC							
	生活デザインコース科目			生活デザイン基礎演習		プロダクトデザインA		プロダクトデザインB		プロダクトデザインC		生活デザインコラボレーション				0	
						インテリアデザインA		インテリアデザインB		インテリアデザインC							
						ファッションデザインA		ファッションデザインB		ファッションデザインC							
キャリア科目		自立と体験2	2		デザインキャリア特別講義	2	インターンシップ							4	2単位以上		
デザインビジネス科目							ポップカルチャービジネス論	2	インターネットビジネス論	2	デザインマネジメント論			12	6単位以上		
							照明演出論		ブランディング論	2	デザインと法	2					
卒業研究							インタラクティブデザイン論	2	ソーシャルデザイン論	2			卒業研究	8	8	8単位	
小計	9	11	12	17				17		12	6	8	92	92単位以上			
合計	19	21	20	21				17		12	6	8	124	124単位以上			

デザイン学部 履修モデル(モデルC)

視覚デザインコース		モデルC		メディアデザインを中心に履修し、情報関連産業への就職を目指すモデル								合計	卒業要件				
科目区分	1年		2年		3年		4年		合計	卒業要件							
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期									
全学共通科目	「自立と体験1(2単位)」、人間を考える(3単位以上)、言葉とコミュニケーション(12単位以上)、歴史と文化を知り、創る(2単位以上)、社会の営みを理解する(2単位以上)、自然と科学を理解する(2単位以上)、その他、全学共通科目全体から9単位以上、合計32単位以上。										32	32単位以上					
小計	10	10	8	4							32						
全学共通社会的・職業的自立促進科目				自立と体験3	(2)	自立と体験4	(2)				(4)	—					
学科科目	理論科目	デザイン概論	2	デザイン史	2	デザインと人	2	デザインと文化	2	デザインとテクノロジー	2	18	12単位以上				
		色彩学		美術史概論		視覚メディア論	2	日本・東洋美術史		論考と構成	2						
	技術科目	表現基礎実習A(平面構成)	1	表現基礎実習E(レンダリング・モデリング)	1	表現基礎実習F(印刷技法)		表現基礎実習G(彫塑)		サウンドデザイン実習	1	クラフトデザインB	12	8単位以上			
		表現基礎実習B(立体構成)	1	表現基礎実習2(コンピュータ)	1	表現応用実習	1	メディア表現実習	1	クラフトデザインA	1						
		表現基礎実習C(イメージ描画)	1	材料加工実習B(金属・樹脂・新素材)	1	材料加工実習C(土・ガラス)		シナリオ制作実習									
		表現基礎実習D(デザイン)		デザイン製図実習	1	デジタル工作実習	1										
		表現基礎実習1(紙・布・木)	1														
	企画表現科目	企画表現演習1	2	企画表現演習2	2	企画表現演習3	2	企画表現演習4	4	企画表現演習5	4	企画表現演習6	4	企画表現演習7	4	22	22単位
	視覚デザインコース科目			視覚デザイン基礎演習	2	グラフィックデザインA		グラフィックデザインB		グラフィックデザインC		視覚デザインコラボレーション	2			16	14単位以上
						マンガデザインA		マンガデザインB		マンガデザインC							
						メディアデザインA	4	メディアデザインB	4	メディアデザインC	4						
	生活デザインコース科目			生活デザイン基礎演習		プロダクトデザインA		プロダクトデザインB		プロダクトデザインC		生活デザインコラボレーション				0	
						インテリアデザインA		インテリアデザインB		インテリアデザインC							
						ファッションデザインA		ファッションデザインB		ファッションデザインC							
キャリア科目		自立と体験2	2			デザインキャリア特別講義	2	インターンシップ						4	2単位以上		
デザインビジネス科目								ポップカルチャービジネス論	2	インターネットビジネス論	2	デザインマネジメント論			12	6単位以上	
								照明演出論	2	ブランディング論	2	デザインと法	2				
								インタラクティブデザイン論	2	ソーシャルデザイン論							
卒業研究										卒業研究	8	8	8	8	8単位		
小計	8	12	14	15	19	10	6	8	92	92単位以上							
合計	18	22	22	19	19	10	6	8	124	124単位以上							

デザイン学部 履修モデル(モデルD)

視覚デザインコース		モデルD		視覚デザインコースの科目を横断的に履修し、将来、視覚デザインのプランナーやプロデューサーを目指すモデル								合計	卒業要件				
科目区分	1年		2年		3年		4年		合計	卒業要件							
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期									
全学共通科目	「自立と体験1(2単位)」、人間を考える(3単位以上)、言葉とコミュニケーション(12単位以上)、歴史と文化を知り、創る(2単位以上)、 社会の営みを理解する(2単位以上)、自然と科学を理解する(2単位以上)、その他、全学共通科目全体から9単位以上、合計32単位以上。										32	32単位以上					
小計	8	8	8	8							32						
全学共通社会的・職業的自立促進科目				自立と体験3	(2)	自立と体験4	(2)				(4)	—					
学科科目	理論科目	デザイン概論	2	デザイン史	2	デザインと人		デザインと文化		デザインとテクノロジー		18	12単位以上				
		色彩学	2	美術史概論	2	視覚メディア論	2	日本・東洋美術史	2	論考と構成	2						
	技術科目	デザイン図学	2	材料学	2	マンガ・アニメーション史						14	8単位以上				
		表現基礎実習A (平面構成)	1	表現基礎実習E (レンダリング・モデリング)	1	表現基礎実習F (印刷技法)	1	表現基礎実習G (彫塑)	1	サウンドデザイン実習	2			クラフトデザインB	2		
		表現基礎実習B (立体構成)	1	コンピュータ表現基礎実習2	1	コンピュータ表現応用実習	1	メディア表現実習	1	クラフトデザインA	2						
		表現基礎実習C (イメージ描画)	1	材料加工実習B (金属・樹脂・新素材)	1	材料加工実習C (土・ガラス)	1	シナリオ制作実習									
		表現基礎実習D (デザイン)	1	デザイン製図実習		デジタル工作実習											
		コンピュータ表現基礎実習1	1														
	材料加工実習A (紙・布・木)	1															
	企画表現科目	企画表現演習1	2	企画表現演習2	2	企画表現演習3	2	企画表現演習4	4	企画表現演習5	4	企画表現演習6	4	企画表現演習7	4	22	22単位
	視覚デザインコース科目			視覚デザイン基礎演習	2	グラフィックデザインA	4	グラフィックデザインB		グラフィックデザインC		視覚デザイン コラボレーション		14	14単位以上		
						マンガデザインA		マンガデザインB	4	マンガデザインC							
						メディアデザインA		メディアデザインB		メディアデザインC	4						
	生活デザインコース科目			生活デザイン基礎演習	2	プロダクトデザインA		プロダクトデザインB		プロダクトデザインC		生活デザイン コラボレーション		2			
					インテリアデザインA		インテリアデザインB		インテリアデザインC								
					ファッションデザインA		ファッションデザインB		ファッションデザインC								
キャリア科目		自立と体験2	2		デザインキャリア特別講義	2	インターンシップ					4	2単位以上				
デザインビジネス科目							ポップカルチャー ビジネス論	2	インターネットビジネス論	2	デザインマネジメント論		10	6単位以上			
							照明演出論		ブランディング論		デザインと法	2					
卒業研究							インタラクティブ デザイン論	2	ソーシャルデザイン論	2	卒業研究	8	8	8単位			
小計	10	16	12	14	16	10	6	8	8	92	92	92単位以上					
合計	18	24	20	22	16	10	6	8	8	124	124	124単位以上					

デザイン学部 履修モデル(モデルE)

生活デザインコース		モデルE		プロダクトデザインを中心に履修し、各種メーカーのデザイナー、企業の企画部門への就職を目指すモデル								合計	卒業要件				
科目区分	1年		2年		3年		4年		合計	卒業要件							
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期									
全学共通科目	「自立と体験1(2単位)」、人間を考える(3単位以上)、言葉とコミュニケーション(12単位以上)、歴史と文化を知り、創る(2単位以上)、社会の営みを理解する(2単位以上)、自然と科学を理解する(2単位以上)、その他、全学共通科目全体から9単位以上、合計32単位以上。								32	32単位以上							
小計	10	8	8	6					32								
全学共通社会的・職業的自立促進科目			自立と体験3	(2)	自立と体験4	(2)			(4)	—							
学科科目	理論科目	デザイン概論	2	デザイン史	2	デザインと人	2	デザインと文化	2	デザインとテクノロジー	2	18	12単位以上				
		色彩学	2	美術史概論	2	視覚メディア論	2	日本・東洋美術史	2	論考と構成	2						
	技術科目	表現基礎実習A(平面構成)	1	表現基礎実習E(レンダリング・モデリング)	1	表現基礎実習F(印刷技法)	1	表現基礎実習G(彫塑)	1	サウンドデザイン実習	1	クラフトデザインB	14	8単位以上			
		表現基礎実習B(立体構成)	1	表現基礎実習1(コンピュータ)	1	表現基礎実習2(コンピュータ)	1	表現応用実習	1	クラフトデザインA	2						
		表現基礎実習C(イメージ描画)	1	材料加工実習B(金属・樹脂・新素材)	1	材料加工実習C(土・ガラス)	1	シナリオ制作実習	1								
		表現基礎実習D(デッサン)	1	デザイン製図実習	1	デジタル工作実習	1										
		表現基礎実習1(材料加工実習A(紙・布・木))	1														
	企画表現科目	企画表現演習1	2	企画表現演習2	2	企画表現演習3	2	企画表現演習4	4	企画表現演習5	4	企画表現演習6	4	企画表現演習7	4	22	22単位
	視覚デザインコース科目			視覚デザイン基礎演習		グラフィックデザインA		グラフィックデザインB		グラフィックデザインC		視覚デザインコラボレーション				0	14単位以上
						マンガデザインA		マンガデザインB		マンガデザインC							
						メディアデザインA		メディアデザインB		メディアデザインC							
	生活デザインコース科目			生活デザイン基礎演習	2	プロダクトデザインA	4	プロダクトデザインB	4	プロダクトデザインC	4	生活デザインコラボレーション	2			16	16
						インテリアデザインA		インテリアデザインB		インテリアデザインC							
						ファッションデザインA		ファッションデザインB		ファッションデザインC							
キャリア科目		自立と体験2	2			デザインキャリア特別講義		インターンシップ	2					4	2単位以上		
デザインビジネス科目								ポップカルチャービジネス論		インターネットビジネス論		デザインマネジメント論	2		10	6単位以上	
								照明演出論	2	ブランディング論		デザインと法	2				
								インタラクティブデザイン論	2	ソーシャルデザイン論	2						
卒業研究										卒業研究			8	8	8単位		
小計	10	14	13	10				21	8		8	8	92	92単位以上			
合計	20	22	21	16				21	8		8	8	124	124単位以上			

デザイン学部 履修モデル(モデルF)

生活デザインコース		モデルF		インテリアデザインを中心に履修し、インテリア関係のデザイナー、企業の企画部門への就職を目指すモデル								合計	卒業要件				
科目区分	1年		2年		3年		4年		合計	卒業要件							
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期									
全学共通科目	「自立と体験1(2単位)」、人間を考える(3単位以上)、言葉とコミュニケーション(12単位以上)、歴史と文化を知り、創る(2単位以上)、社会の営みを理解する(2単位以上)、自然と科学を理解する(2単位以上)、その他、全学共通科目全体から9単位以上、合計32単位以上。								32	32単位以上							
小計	10	8	8	6					32								
全学共通社会的・職業的自立促進科目				自立と体験3	(2)	自立と体験4	(2)			(4)	—						
学科科目	理論科目	デザイン概論	2	デザイン史	2	デザインと人	2	デザインと文化	2	デザインとテクノロジー	2	18	12単位以上				
		色彩学	2	美術史概論	2	視覚メディア論	2	日本・東洋美術史	2	論考と構成	2						
	技術科目	表現基礎実習A(平面構成)	1	表現基礎実習E(レンダリング・モデリング)	1	表現基礎実習F(印刷技法)	1	表現基礎実習G(彫塑)	1	サウンドデザイン実習	1	クラフトデザインB	14	8単位以上			
		表現基礎実習B(立体構成)	1	表現基礎実習2	1	表現応用実習	1	メディア表現実習	1	クラフトデザインA	2						
		表現基礎実習C(イメージ描画)	1	材料加工実習B(金属・樹脂・新素材)	1	材料加工実習C(土・ガラス)	1	シナリオ制作実習	1								
		表現基礎実習D(デッサン)	1	デザイン製図実習	1	デジタル工作実習	1										
		表現基礎実習1(紙・布・木)	1														
	企画表現科目	企画表現演習1	2	企画表現演習2	2	企画表現演習3	2	企画表現演習4	4	企画表現演習5	4	企画表現演習6	4	企画表現演習7	4	22	22単位
	視覚デザインコース科目			視覚デザイン基礎演習		グラフィックデザインA		グラフィックデザインB		グラフィックデザインC		視覚デザインコラボレーション				0	14単位以上
						マンガデザインA		マンガデザインB		マンガデザインC							
						メディアデザインA		メディアデザインB		メディアデザインC							
	生活デザインコース科目			生活デザイン基礎演習	2	プロダクトデザインA		プロダクトデザインB		プロダクトデザインC		生活デザインコラボレーション	2			16	
						インテリアデザインA	4	インテリアデザインB	4	インテリアデザインC	4						
						ファッションデザインA		ファッションデザインB		ファッションデザインC							
キャリア科目		自立と体験2	2		デザインキャリア特別講義	2	インターンシップ	2						6	2単位以上		
デザインビジネス科目							ポップカルチャービジネス論		インターネットビジネス論		デザインマネジメント論				8	6単位以上	
							照明演出論	2	ブランディング論	2	デザインと法	2					
							インタラクティブデザイン論		ソーシャルデザイン論	2							
卒業研究										卒業研究	8	8	8	8単位			
小計	10	14	13	12	19	10	6	8	92	92単位以上							
合計	20	22	21	18	19	10	6	8	124	124単位以上							

デザイン学部 履修モデル(モデルG)

生活デザインコース		モデルG		ファッションデザインを中心に履修し、ファッション関係のデザイナー、企業の企画部門への就職を目指すコース								合計	卒業要件				
科目区分	1年		2年		3年		4年		合計	卒業要件							
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期									
全学共通科目	「自立と体験1(2単位)」、人間を考える(3単位以上)、言葉とコミュニケーション(12単位以上)、歴史と文化を知り、創る(2単位以上)、社会の営みを理解する(2単位以上)、自然と科学を理解する(2単位以上)、その他、全学共通科目全体から9単位以上、合計32単位以上。								32	32単位以上							
小計	10	8	8	6					32								
全学共通社会的・職業的自立促進科目			自立と体験3	(2)	自立と体験4	(2)			(4)	—							
学科科目	理論科目	デザイン概論	2	デザイン史	2	デザインと人	2	デザインと文化	2	デザインとテクノロジー	2	18	12単位以上				
		色彩学	2	美術史概論	2	視覚メディア論	2	日本・東洋美術史	2	論考と構成	2						
	技術科目	表現基礎実習A(平面構成)	1	表現基礎実習E(レンダリング・モデリング)	1	表現基礎実習F(印刷技法)	1	表現基礎実習G(彫塑)	1	サウンドデザイン実習	1	クラフトデザインB	14	8単位以上			
		表現基礎実習B(立体構成)	1	表現基礎実習2(コンピュータ)	1	表現応用実習(コンピュータ)	1	メディア表現実習	1	クラフトデザインA	2						
		表現基礎実習C(イメージ描画)	1	材料加工実習B(金属・樹脂・新素材)	1	材料加工実習C(土・ガラス)	1	シナリオ制作実習	1								
		表現基礎実習D(デッサン)	1	デザイン製図実習	1	デジタル工作実習	1										
		表現基礎実習1(紙・布・木)	1														
	企画表現科目	企画表現演習1	2	企画表現演習2	2	企画表現演習3	2	企画表現演習4	4	企画表現演習5	4	企画表現演習6	4	企画表現演習7	4	22	22単位
	視覚デザインコース科目			視覚デザイン基礎演習		グラフィックデザインA		グラフィックデザインB		グラフィックデザインC		視覚デザインコラボレーション				0	14単位以上
						マンガデザインA		マンガデザインB		マンガデザインC							
						メディアデザインA		メディアデザインB		メディアデザインC							
	生活デザインコース科目			生活デザイン基礎演習	2	プロダクトデザインA		プロダクトデザインB		プロダクトデザインC		生活デザインコラボレーション	2			16	
						インテリアデザインA		インテリアデザインB		インテリアデザインC							
					ファッションデザインA	4	ファッションデザインB	4	ファッションデザインC	4							
キャリア科目		自立と体験2	2		デザインキャリア特別講義	2	インターンシップ							4	2単位以上		
デザインビジネス科目							ポップカルチャービジネス論	2	インターネットビジネス論		デザインマネジメント論	2			10	6単位以上	
							照明演出論	2	ブランディング論	2	デザインと法	2					
卒業研究											卒業研究	8	8	8	8単位		
小計	10	14	13	12	19	8	8	8	8	8	8	92	92単位以上				
合計	20	22	21	18	19	8	8	8	8	8	124	124単位以上					

デザイン学部 履修モデル(モデルH)

生活デザインコース		モデルH		生活デザインコースの科目を横断的に履修し、将来、生活デザインのプランナーやプロデューサーを目指すモデル								合計	卒業要件				
科目区分	1年		2年		3年		4年		合計	卒業要件							
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期									
全学共通科目	「自立と体験1(2単位)」、人間を考える(3単位以上)、言葉とコミュニケーション(12単位以上)、歴史と文化を知り、創る(2単位以上)、社会の営みを理解する(2単位以上)、自然と科学を理解する(2単位以上)、その他、全学共通科目全体から9単位以上、合計32単位以上。								32	32単位以上							
小計	8	8	8	8					32								
全学共通社会的・職業的自立促進科目				自立と体験3	(2)	自立と体験4	(2)			(4)	—						
学科科目	理論科目	デザイン概論	2	デザイン史	2	デザインと人		デザインと文化		デザインとテクノロジー		18	12単位以上				
		色彩学	2	美術史概論	2	視覚メディア論	2	日本・東洋美術史	2	論考と構成	2						
	技術科目			デザイン図学	2	材料学	2	マンガ・アニメーション史				14	8単位以上				
		表現基礎実習A(平面構成)		表現基礎実習E(レンダリング・モデリング)		表現基礎実習F(印刷技法)	1	表現基礎実習G(彫塑)	1	サウンドデザイン実習				クラフトデザインB	2		
		表現基礎実習B(立体構成)	1	表現基礎実習2(コンピュータ)	1	表現応用実習		メディア表現実習	1	クラフトデザインA	2						
		表現基礎実習C(イメージ描画)		材料加工実習B(金属・樹脂・新素材)	1	材料加工実習C(土・ガラス)	1	シナリオ制作実習									
		表現基礎実習D(デッサン)	1	デザイン製図実習		デジタル工作実習											
	表現基礎実習1(紙・布・木)	1															
	企画表現科目	企画表現演習1	2	企画表現演習2	2	企画表現演習3	2	企画表現演習4	4	企画表現演習5	4	企画表現演習6	4	企画表現演習7	4	22	22単位
	視覚デザインコース科目			視覚デザイン基礎演習	2	グラフィックデザインA		グラフィックデザインB		グラフィックデザインC		視覚デザインコラボレーション				2	14単位以上
						マンガデザインA		マンガデザインB		マンガデザインC							
						メディアデザインA		メディアデザインB		メディアデザインC							
	生活デザインコース科目			生活デザイン基礎演習	2	プロダクトデザインA	4	プロダクトデザインB		プロダクトデザインC		生活デザインコラボレーション				14	
						インテリアデザインA		インテリアデザインB	4	インテリアデザインC							
					ファッションデザインA		ファッションデザインB		ファッションデザインC	4							
キャリア科目		自立と体験2	2			デザインキャリア特別講義	2	インターンシップ						4	2単位以上		
デザインビジネス科目								ポップカルチャービジネス論	2	インターネットビジネス論	2	デザインマネジメント論			10	6単位以上	
								照明演出論		ブランディング論		デザインと法	2				
卒業研究								インタラクティブデザイン論	2	ソーシャルデザイン論	2			卒業研究	8	8	8単位
小計	10	16	12	14	16	10	6	8	92	92単位以上							
合計	18	24	20	22	16	10	6	8	124	124単位以上							

インターンシップ受け入れ企業一覧

NO	企 業 名	受け入れ 可能人数
1	株式会社スターランドコミュニケーション	1
2	株式会社梁プランニング	1
3	株式会社なつコーポレーション	1
4	株式会社日本スクールシステム機構	5
5	共同通信電設株式会社	1
6	株式会社東栄住宅	1
7	株式会社ニチイケアパレス	5
8	株式会社オギノパン	4
9	株式会社 Olympic	2
10	株式会社ユー花園	3
11	株式会社東建社	1
12	和幸商事株式会社	3
13	横浜トヨペット株式会社	1
14	株式会社タイムインターメディア	5
15	株式会社映像システム	1
16	株式会社トゥールズインターナショナル	3
17	株式会社ウィルクリエーション	3
18	ファンアート工業株式会社	3
合 計		44

学内諮問委員会の所管事項等

委員会名	所管事項等
ア 大学規程整備委員会	規程整備計画の策定、全学的な教学に係る規程案の協議等
イ 全学教務委員会	教務に関する全学的な事項、学生の学籍、資格取得に係る協議等
ウ 明星大学自己点検・自己評価基本方針策定委員会	点検・評価基本方針の策定、点検・評価項目に基づく細目の設定、評価基準の設定等
エ 全学自己点検・評価実施委員会	全学的点検・評価の実施、部局別点検・評価の検証、点検・評価報告書の編集等
オ 全学入試運営委員会	入学者選抜方針の策定、入試実施、学生募集、入試広報、アドミッションセンター業務に係る協議等
カ 明星大学全学ウェブサイト管理委員会	ウェブサイトの運用、掲載項目・内容、運用規程の制定に係る協議等
キ 明星大学キャンパス開発委員会	キャンパス整備計画、施設利用計画の策定等
ク 全学学生生活委員会	学生生活、課外活動、奨学金、福利厚生、安全衛生等に係る協議等
ケ キャンパス・ハラスメント防止・対策委員会	ハラスメント防止策の検討、啓発・研修、申し立てへの対応等
コ 明星大学個人情報運用管理委員会	個人情報の管理・保存、申し立てに関する事項、個人情報保護に係る広報・啓発等
サ 海外研修危機管理委員会	ガイドラインの策定・周知、危機管理情報システム・情報連絡網の整備、危機管理対策の見直し等
シ 明星大学研究費不正使用防止・対策委員会	防止計画の策定、防止計画の周知・研修の実施、調査委員会の設置等
ス 全学FD委員会	基本方針の策定、全学FDの企画・実施、新任教員研修、授業に関する学生アンケートの企画等
セ 全学就職委員会	就職指導、情報収集・提供、ガイダンス、広報活動、諸団体との連絡調整に係る協議等